



2020年8月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年7月3日

上場会社名 ケイティケイ株式会社
 コード番号 3035 URL <https://www.ktk.gr.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 青山 英生
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理本部長 (氏名) 青山 敏久
 四半期報告書提出予定日 2020年7月3日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 TEL 052-931-1881

(百万円未満切捨て)

1. 2020年8月期第3四半期の連結業績(2019年8月21日～2020年5月20日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年8月期第3四半期	12,698	1.0	313	12.6	332	10.1	255	22.7
2019年8月期第3四半期	12,573	1.8	278	8.4	302	6.8	207	8.6

(注) 包括利益 2020年8月期第3四半期 223百万円 (30.5%) 2019年8月期第3四半期 171百万円 (15.0%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年8月期第3四半期	45.43	
2019年8月期第3四半期	36.32	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年8月期第3四半期	8,990	3,099	34.5
2019年8月期	7,952	3,068	38.6

(参考) 自己資本 2020年8月期第3四半期 3,099百万円 2019年8月期 3,068百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年8月期		0.00		11.00	11.00
2020年8月期		0.00			
2020年8月期(予想)				11.00	11.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年8月期の連結業績予想(2019年8月21日～2020年8月20日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	16,700	0.0	288	0.7	315	0.0	216	0.2	39.01

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 有
会計上の見積りの変更 : 有
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年8月期3Q	5,725,000 株	2019年8月期	5,725,000 株
期末自己株式数	2020年8月期3Q	357,886 株	2019年8月期	2,864 株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年8月期3Q	5,614,591 株	2019年8月期3Q	5,722,136 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、本資料の発表日現在における入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因により予想数値と異なる結果となる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については四半期決算短信(添付資料)2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2019年8月21日～2020年5月20日)におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う経済活動の自粛等の影響により、景気が急速に悪化し、極めて厳しい経済状況となりました。今後も国内外の経済情勢に大きな影響を与えることが想定されることから、先行き不透明な状況となっております。

このような環境下において、前期事業計画を発展させた新たな事業計画「ktkイノベーションプランVer.2」を策定し、営業、生産、管理・経営、調達・物流の各部門に「未開拓市場への進出、自社製品の更なる拡販」「生産性向上、総原価削減、品質改善、最速開発」「リパクトナー生産、既存事業の拡大、工場発の売上貢献」「新規事業の具体化と社員の生産性・満足度の向上」「更なるコストダウンとサービスレベル向上」を戦略に掲げ、全社が一丸となって邁進してまいりました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間は、消費税率引き上げによる一時的な駆け込み需要やWindows10への切り替えに伴う特需もあって事業計画「ktkイノベーションプランVer.2」は順調に進捗したものの、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う影響が一定程度あり、売上高は12,698,630千円(前年同四半期比1.0%増)となりました。

利益につきましては、売上高が増加したことに加え、前期事業計画に引き続き、製造コストと調達コストの削減を実現し、業務効率を向上させたことにより、営業利益は313,031千円(前年同四半期比12.6%増)、経常利益は332,792千円(前年同四半期比10.1%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は255,116千円(前年同四半期比22.7%増)となりました。

なお、連結子会社である株式会社青雲クラウンの業績は、多くの顧客の年度末及び年度始めにあたる当社第3四半期連結会計期間以降に売上高が多く計上されるという季節的変動があります。

また、当社グループの事業は単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ1,038,180千円増加し、8,990,933千円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ1,040,128千円増加し、6,096,388千円となりました。これは、主に現金及び預金が189,947千円、受取手形及び売掛金が713,718千円、商品及び製品が102,176千円増加したこと等によります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ1,948千円減少し、2,894,545千円となりました。これは、投資その他の資産が46,376千円減少し、有形固定資産が43,714千円増加したこと等によります。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ1,104,167千円増加し、5,411,814千円となりました。これは、主に支払手形及び買掛金が254,832千円、電子記録債務が161,936千円、短期借入金が576,892千円増加したこと等によります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ96,231千円減少し、480,042千円となりました。これは、主に長期借入金が65,138千円減少したこと等によります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ30,244千円増加し、3,099,075千円となりました。これは、主に利益剰余金が192,173千円増加し、自己株式の取得を130,649千円行ったこと等によります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年8月期の業績予想につきましては、2019年10月3日に発表いたしました連結業績予想より変更はありません。なお、新型コロナウイルス感染症の当社業績への影響については現在精査中です。今後、当社業績予想への影響が判明し、修正が必要な場合は速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年8月20日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年5月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,096,942	2,286,890
受取手形及び売掛金	2,366,863	3,080,581
商品及び製品	444,016	546,193
仕掛品	784	530
原材料及び貯蔵品	68,059	90,329
その他	86,724	101,816
貸倒引当金	△7,132	△9,954
流動資産合計	5,056,259	6,096,388
固定資産		
有形固定資産		
土地	1,116,543	1,150,441
その他(純額)	513,906	523,723
有形固定資産合計	1,630,450	1,674,164
無形固定資産		
のれん	74,051	69,779
その他	26,355	31,341
無形固定資産合計	100,407	101,120
投資その他の資産		
その他	1,206,516	1,160,664
貸倒引当金	△40,879	△41,403
投資その他の資産合計	1,165,636	1,119,260
固定資産合計	2,896,494	2,894,545
資産合計	7,952,753	8,990,933

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年8月20日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年5月20日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,511,448	1,766,281
電子記録債務	1,306,158	1,468,094
短期借入金	973,897	1,550,789
未払法人税等	77,399	85,149
賞与引当金	91,707	97,877
役員賞与引当金	10,850	—
その他	336,186	443,622
流動負債合計	4,307,647	5,411,814
固定負債		
長期借入金	223,743	158,605
役員退職慰労引当金	66,671	52,801
退職給付に係る負債	120,479	122,030
その他	165,380	146,606
固定負債合計	576,274	480,042
負債合計	4,883,921	5,891,857
純資産の部		
株主資本		
資本金	294,675	294,675
資本剰余金	663,325	663,325
利益剰余金	2,007,007	2,199,180
自己株式	△1,282	△131,932
株主資本合計	2,963,725	3,025,248
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	105,106	73,827
その他の包括利益累計額合計	105,106	73,827
純資産合計	3,068,831	3,099,075
負債純資産合計	7,952,753	8,990,933

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年8月21日 至2019年5月20日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年8月21日 至2020年5月20日)
売上高	12,573,530	12,698,630
売上原価	9,971,401	10,063,141
売上総利益	2,602,128	2,635,489
販売費及び一般管理費	2,324,114	2,322,457
営業利益	278,014	313,031
営業外収益		
受取利息	165	452
受取配当金	13,497	13,800
仕入割引	29,346	27,017
受取家賃	39,167	32,831
その他	5,283	9,976
営業外収益合計	87,460	84,078
営業外費用		
支払利息	6,039	5,783
売上割引	46,804	49,486
その他	10,327	9,047
営業外費用合計	63,170	64,317
経常利益	302,303	332,792
特別利益		
投資有価証券売却益	—	32,822
負ののれん発生益	—	6,039
特別利益合計	—	38,861
税金等調整前四半期純利益	302,303	371,654
法人税、住民税及び事業税	102,855	131,898
法人税等調整額	△8,431	△15,360
法人税等合計	94,424	116,537
四半期純利益	207,879	255,116
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	207,879	255,116

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年8月21日 至 2019年5月20日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年8月21日 至 2020年5月20日)
四半期純利益	207,879	255,116
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△36,350	△31,279
その他の包括利益合計	△36,350	△31,279
四半期包括利益	171,528	223,837
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	171,528	223,837
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

連結の範囲の重要な変更

当第3四半期連結会計期間において、当社の連結子会社である株式会社青雲クラウンが、株式会社エス・アンド・エスの全株式を取得し子会社化(当社の孫会社化)したことにより、同社を連結の範囲に含めております。

なお、当第3四半期連結累計期間は貸借対照表のみを連結しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2020年2月21日開催の取締役会決議に基づき、自己株式355,000株の取得を行っております。この結果、当第3四半期連結累計期間において単元未満株式の買取を含め自己株式が130,649千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が131,932千円となっております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

《簡便的な会計処理》

① たな卸資産の評価方法

当第3四半期連結会計期間末のたな卸高の算出に関しては、実地たな卸を省略し、前連結会計期間末の実地たな卸高を基礎として合理的な方法により算出する方法によっております。

また、たな卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。

② 経過勘定項目の算定方法

合理的な算定方法による概算額で計上する方法によっております。

③ 法人税並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

法人税等の納付額の算定に関しては、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定する方法によっております。

繰延税金資産の回収可能性の判断については、前連結会計期間末以降に経営環境等に著しい変化が生じておらず、一時差異等の発生状況に大幅な変動がないと認められるため、前連結会計期間において使用した将来の業績予想やタックス・プランニングを利用しております。

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

当社及び連結子会社は、有形固定資産(リース資産を除く)の減価償却方法について、従来は主として定率法を採用していましたが、当連結会計年度より定額法に変更しております。

当社における「ktkイノベーションプランVer.2」による投資の増加や連結子会社の基幹システムの改修等を契機として、有形固定資産の使用状況等の調査をした結果、当社グループの有形固定資産は、今後も耐用年数にわたり安定的な稼働が見込まれることから、耐用年数にわたり均等額の費用が計上される定額法に変更することが、経済的実態をより適切に反映する合理的な方法であると判断するに至りました。

この変更により、従来の方法と比べて、当連結会計年度の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ6,748千円増加しております。